

平成 27 年度 第 9 回

大栗市教育委員会

会 議 録

(要点筆記)

日時 平成 27 年 12 月 21 日 午後 4 時 40 分から

場所 波賀市民局 2 階 第 2 会議室

第9回（定例）宍粟市教育委員会会議録

1 開会・閉会の年月日時及び場所

平成27年12月21日（月） 午後4時40分 ～ 午後5時45分

兵庫県宍粟市波賀町上野257番地

波賀市民局2階 第2会議室

2 会議に出席した者の職氏名

教育委員	西岡章寿	教育長	杉本健三	委員
	弓削ルリコ	委員	田中真人	委員
	金本一二	委員		
事務局	藤原卓郎	教育部長	榎谷米男	教育部次長
	澤田志保	教育総務課長	志水良和	学校教育課課長
	中尾善弘	こども未来課副課長	田路正幸	社会教育課長
	菊元 学	学校給食センター所長	橋本 徹	教育総務課副課長

3 開会

西岡教育長が開会した。

4 会議の成立宣言

出席者数5名となり、西岡教育長が会議の成立を宣言した。

5 会議録署名委員の指名

(1) 署名委員は、西岡教育長の指名により、次のとおり決定された。

金本委員

6 前回会議録の承認

第8回（定例）宍粟市教育委員会会議録の承認に関する件

前回の定例教育委員会における協議事項、報告事項の会議録について、教育総務課 澤田課長が説明し、承認された。

7 教育長報告

次の2点について西岡教育長が報告した。

(1) 学校規模適性化・幼保一元化推進状況について

学校規模適正化については、一宮北中学校区では、12月14日に第12回協議会を開催し、校歌と3小学校閉校式の日程等について確認された。閉校式は下三方小学校が平成28年3月5日（土）午前、繁盛小学校が3月6日（日）午前、三方小学校が3月6日（日）午後に開催予定であることが報告された。一宮南中学校区では、11月26日に第4回協議会を開催し、新校の校名について公募を決定され、校名応募が始まったところである。

幼保一元化については、波賀中学校区地域の委員会では12月16日に、一宮南中学校区地域の委員会では12月18日に、ちくさ杉の子こども園の視察をされた。

(2) 平成28年度版「宍粟の教育」について

今年度は、第2次宍粟市総合計画の見直しが行われ、12月18日の市議会で可決された。28年4月から今後10年間、この計画に基づき施策が展開される。「宍粟の教育」についても、総合教育会議や第2次宍粟市総合計画の内容を反映しながら、本市の教育に関わるすべての人々が課題と目標を共有するための資料となるよう作成するので、今後も協力をお願いする。

8 協議報告事項

(1) 学校規模適正化・幼保一元化推進状況について

資料1「学校規模適正化・幼保一元化推進の状況」により、学校規模適正化、幼保一元化について、教育総務課 澤田課長が報告した。

(2) 学校教職員の処分について

学校教職員の処分について、教育部 藤原部長が報告した。

(3) 特別支援教育充実に向けての要望について

資料2「要望書」により、学校教育課 志水課長が報告した。

(4) 平成28年度版「宍粟の教育」編集方針について

資料3「平成28年度版「宍粟の教育」編集方針」により、学校教育課 志水課長が報告した。

(5) 平成28年度教育施策について

資料4「平成28年度教育施策について」により、教育総務課 澤田課長が報告した。

(6) 学校給食における異物混入の状況について

資料5「平成27年度学校給食センター異物混入状況及び対策」により、学校給食センター 菊元所長が報告した。

(7) 第11回宍粟市駅伝大会について

資料6「第11回宍粟市駅伝大会要項」により、教育総務課 澤田課長が報告した。

(8) その他

千種高校生徒への給食提供に関する要望について、教育部 藤原部長が報告した。「ひょうご林業大学校（仮称）」の創設について、資料7「「ひょうご林業大学校（仮称）」の創設にかかわる有識者会議の概要」により、教育総務課 澤田課長が報告した。旧土万小学校施設活用「相生学院高等学校宍粟校」の開校について、資料8「宍粟市報道発表 旧土万小学校施設活用「相生学院高等学校宍粟校」開校」により、教育総務課 澤田課長が報告した。

委員の主な意見及び事務局の説明

（杉本委員）

学校教職員の処分について、その教職員の勤務先の学校を設置する市教育委員会としては、今後、その教職員に対してどのように指導していこうと考えているのか教えていただきたい。

（学校教育課長）

市教委事務局において今回の処分事由となった事件を知り得た後、勤務先の学校長とその教職員を呼び、直接、指導を行った。県処分後は、学校長からは当該教職員がどのように変化しているか定期的に報告を受けている。今後、教職員の様子を見計らいながら、面談等による指導を考えている。

（弓削委員）

教職員の処分は公平公正に行われていると思うが、処分にあたり基準や手続きのようなものがあれば教えていただきたい。

（学校教育課長）

県教委では処分を行う前に、直接、該当教職員や学校長から何回も聞き取りを行っている。また、処分の前には該当者に不服申し立て制度の説明も行うとともに、慎重審議の上で処分を行うことになっている。今回もそのような手続きを経て処分に至ったと受け止めている。

（金本委員）

今回の県教委処分は、生徒指導方法が連帯責任という前時代的なものであったと処分理由の発表があったが、先日開催の平成 26 年度「西播磨人権のつどい」で、「自分にしてほしくないことは相手もしてほしくない」と、中学生が解りやすく思いやりの気持ちについて発表していた。教職員にも日頃からその思いを持ち、生徒の心に響くような指導を行っていただきたいと思う。

（杉本委員）

仲間に迷惑をかけるようなことをしてはいけないのは当然のことであり、それを連帯責任に求めるというのは指導側に都合のよい論理であり正しくないと感じている。今回の生徒指導方法は人権上においても問題があり、市教委では、全ての教職員に対して、研修の機会を通じて指導を行う上で人権の大切さを、十分、指導願いたいと思う。

（学校教育課長）

臨時の校長会を開催し、今回の指導方法はだれが見ても不適切な指導であると、全校長に改めて指導した。宿題をしない生徒に宿題させるために、それを連帯責任に求めるという手法は、非常に短絡的であり不適切な指導であると、市教委、校長会の共通の確認としている。市教委として、人権に配慮した温かい心の通った人間環境のなかで、生徒指導を行っていく必要性があ

ると考えており、研修会でも、その点を押さえ指導していきたいと考えている

(教育長)

学校から報告を受けた後、当該教員には指導を継続している。校園所長会でも子どもの人権を守るということを第一に考えながら、保護者目線で生徒指導するように文言で記載するなど、しっかりと生徒指導ができるよう工夫していく。今後も校長会等と連携しながら宍粟の子どもたちをしっかりと育てていきたいと考えている。

(杉本委員)

特別支援教育充実に向け、資料中、要望書の特別支援学校分教室の設置方法は、県立姫路別所高校に設置の分教室のようなかたちをイメージすればよいのか。また、市では今後さらなる調査、検討を重ね、市北部の児童の特別支援学校中等部の進学状況、同じく市北部の特別な支援を必要とする生徒の県立高校の在籍状況をふまえ、特別支援学校分教室の設置、また、市にふさわしいかたちで、高等学校の校長によるカリキュラム運用の弾力化や支援環境の充実等がすすむよう、検討をお願いしたい。

(学校教育課長)

県立姫路別所高校に設置の特別支援学校分教室の状況、クラス数、生徒数及びその内容等詳細は現在調査中であるが、市の要望としては既にある高校に分教室を設置する、例えば姫路別所高校のようなイメージを持っている。また、要望書では、特別支援学校中等部及び高等部の設置や支援体制の充実をお願いしており、市にふさわしいかたちで設置され、特別支援教育の充実となるよう今後も調査検討を重ねていきたい。

(田中委員)

特別支援教育充実に向け、資料中の要望書には「従来どおりの高校のカリキュラムや指導方法では、対応しきれないケース」と記載あるが、もう少し具体的に説明をいただきたい。

(教育長)

市内の高校では新入学生の募集定員割れの状況があり、市立中学校の特別支援学級の卒業生も市内の高校に進学してはいるが、進学先の高校の教育課程では習熟度において対応しきれないケースもあり、結果的に一部で、入学後、進路の変更を検討されている現実もある。

(学校教育課長)

県立千種高校には、生徒の卒業後進路も視野に入れ生徒希望に応じ、チャレンジ、ベーシック、アクティブの3コース選択が可能であるが、県立伊和高校には、そういったコースは無い。特別な支援を要する生徒の一人一人の自立に向け、中学校の進路担当には、その高校の進学が合っているどうか見極める必要があると伝えており、進学先の高校とも連携しながら、特別支援体制の充実を進める必要がある。

(田中委員)

平成28年度教育施策について、旧野原小学校の施設を活用したICT関連事業は28年度教育施策として予算計上の予定は無いのか教えていただきたい。

(学校教育課長)

旧野原小学校の施設を活用としたＩＣＴ関連事業は、27年度の教育施策事業として予算計上済であり現在整備をすすめているところである。今年度中の機器整備を予定しており、28年度から情報機器の稼働は開始となる。

(弓削委員)

都多小学校にＩＣＴ授業の見学に行かせていただき、児童は情報機器を使い新聞づくりに取り組むなど、児童にとって夢のある事業であると感じた。市内の他学校におけるＩＣＴ授業の取組予定を教えていただきたい。

(学校教育課長)

都多小の取組は、総務省「ＩＣＴドリームスクール」実証モデル校としてタブレット端末を生徒一人一人に配備し新聞記事を書き、紙面の編集を行うなど、国内でも最先端の取組である。市では、教員にタブレット端末を配置し、主に大型モニターを介して、児童にわかりやすい授業が提供できる環境整備をめざしている。現在の予定では、教員の情報操作指導の質を高め、指導力向上という点で整備の計画を予定している。

(教育長)

学校給食の異物混入については、混入をゼロとして報告することができず残念なことではあるが、教委として混入がゼロとなるよう取組は進めており、その取組の一つとして、現在、異物対応マニュアルの作成をすすめている。次回、教育委員会で担当課から資料提示の予定である。

(金本委員)

ちくさ杉の子こども園において幼保一元化地域の委員会による視察が行われたと教育長報告であったが、その様子等について教えていただきたい。

また、こども園園舎は、建物の構造上、遊戯室は面積も広く間仕切りも無いため、冬季は寒いと、こども園の別会議で園関係者から意見が出ていた。今後の市の対応予定等があれば教えていただきたい。

(中尾副課長)

幼保一元化地域の委員会からの視察要望が9月新園舎での保育開始時からあったが、園児をとりまく環境の変化に配慮して、新園舎での保育が軌道に乗るまで待つてほしいとして、12月の受け入れとなった。視察は、開園までの経過説明は教委事務局職員が行った。新園舎の施設見学のあと、場所を変え、「ちくさっ子を育てる会」「こども園保護者会」関係者出席のもとで保護者同士の交流も行った。

こども園園舎の遊戯室は天井が高く、間仕切りがない構造であり、冬季は寒いと報告も受けている。室内に暖気だまりができるよう、アコーディオンカーテン設置や、大型暖房ヒーター2台設置による対策をとっている。寒気進入防止の工夫はしているが、利用して初めて気づくこともあり、一つ一つ対応していきたい。

(弓削委員)

平成28年度教育施策について、神戸小学校にエレベーター設置の予算が計上されているが、そ

の理由を教えてください。

(教育総務課長)

平成 28 年 4 月に肢体不自由の児童入学の予定があり、その対応のため予算計上している。

10 次回会議の招集について

平成 28 年 1 月 21 日（木）午前 9 時 30 分から、平成 27 年度第 10 回宍粟市教育委員会を宍粟市役所 401 会議室で開催すると決定した。

11 閉会

杉本委員が閉会した。

以上 午後 5 時 45 分終了